

# タイ『チェンダオ山 2225m』登頂と観光あれこれ秘話

(東葛山の会) 安彦秀夫

期 日：2018年11月28日(水)～12月5日(水) <7泊8日>

参加者：東葛山の会9名、千葉こまくさハイキングクラブ6名、松戸山の会2名、  
かがりび山の会、松戸遠足クラブ1年さくら組、山の会らんたん、  
ちば山の会、茂原道標山の会、ふわくハイキングサークル 各1名  
合計23名(男性：11名、女性12名)

『登山時報2016年5月号』に掲載された『タイ：チェンダオ山』の記事を読み、『いつかは行ってみたい…』と思っていました。

その山を県連の仲間と一緒に楽しみ、下山後は、アユタヤやバンコクの観光を満喫するとともに、タイ料理やタイ舞踊、そしてニューハーフ・ショーも堪能してきました。裏話を中心に披露したいと思います。登山・観光の感想は、他の参加者に譲ります。

## <1> 登山用の地図が見つからない…

チェンダオ山の登山用地図を探しましたが、適切なものは見当たらず、現地の旅行会社数社に問い合わせをしました。しかし、どの会社からも『地図はありません』という回答が届くだけでした。

説明会を開催した際に、一人の参加者から、インターネットからダウンロードして加工した地図を見せて貰い、それを参考に、私なりの地図を作成してみました。しかし、この地図からチェンダオ山の標高『2225m』を読み取ることはできませんでした。登山ルートなどをイメージするには十分なものとなりました。



チェンダオ山山頂(夕陽をバックに?)



下山後のデンヤカット登山口(ガイド2名と一緒に)

## <2> チェンダオ山登山コースが変更…

チェンマイ空港に迎えに来たガイド Mr. Nui(ヌイさん：47歳：通訳)に、今回の登山コースなどについて詳細を聞きましたが、納得できる説明を得ることはできませんでした。

入山当日、登山管理事務所に行き、当初のコースは崩壊のため閉鎖し、もう一つのデン

ヤカット登山口からの往復になる…ということを知りました。

今シーズン（11月～3月の乾季）から、このコース往復のみが自然保護の観点から許可される…とのことでした。それを裏付けるかのように、当初予定の登山口からのコースとの合流点には、閉鎖した登山道に細い1本の紐が張っており、監視員二人が居ました。

登山口までの道は、長く、狭く、急峻で、更に、凸凹の連続で、四輪駆動車でなければ走れない悪路の連続でした。荷台に乗った人は、『ロデオ』の気分を満喫(?)したことと思います。

もう一人のガイド Mr.Nicom(ニコムさん：47歳：通訳)は、初めてのチェンダオ山登山だったようで、下山後には、全身が痛いようで悲鳴をあげていました。

2人のガイドは同級生のような感じでした。小学校か中学校か高校かは分かりませんが…。

### <3>チェンダオ山登山時のトイレは…

『登山管理事務所』で入山手続き後、自然保護（野生植物・動物等）を目的とした入山中のトイレ等について、事務所女性スタッフから実演を交えながら説明がありました。

それは、『小用（口部分が閉まるビニール製の600ccの袋と吸水（凝固）用粉末のセット）』2個と『大用（自然分解性素材で作られている黒い大きな袋）』4枚が、専用のナップザックにティッシュペーパー2パックと一緒に収納されたもので、全員に配布されました。

テントサイトの隅に、1m四方くらいの青空天井のトイレブースがあり、『腰かけ部分の中央に直径約30cmの丸い穴があるプラスチック製の椅子』が置いてある…という簡単なトイレ施設で、『大用』の黒い大きな袋をこの椅子にセットして使用するものでした。

ただ問題がありました。

この穴が小さいため、『大』と『小』を同時にするためには、高度(?)なテクニックが必要だったことです。改善の余地あり…と感じました。

トイレブースの近くに大きな穴が掘られ、そこに『済んだ袋』を投げ入れるようになっていました。自然分解性素材なので、恐らくこのまま放置されると思います。トイレブースやこの大きな穴の付近は、白い粉が撒かれていました。



トイレセット



トイレブース

#### <4>チェンダオ山登山ガイドとポーターは…

『登山ガイド3名、ポーター7名』で、ポーターは、共同食材や炊事道具などを運ぶので、私達の荷物を持ってないだろう…とのことでした。それで、新たに5名のポーターの手配を依頼しましたが、『OK!』の返事が無いまま『現地での直接交渉しかない…』という覚悟を持って成田を出発しました。

登山管理事務所『登山ガイド2名、ポーター8名』で、私達の荷物も登山者一人5kgまで持つ…ということで納得しました。私達の荷物は、1個1個計量しポーターに配分され、各ポーターは大きな荷物を背負って汗をかきながら歩いてくれました。感謝!

2名の登山ガイドは若く、登りの時は先頭と最後尾を、説明をしながら歩いてくれたのですが、下りの時は、どこへ行ったのやら…。本当に登山ガイドなの…と疑いたくなるほどでした。

#### <5>観光地でのトイレは…

観光地でのトイレは、殆ど有料で『5バーツ (約20円)』が必要でした。『5バーツ・コイン』が無ければ利用できない自動入口では、近くの店で両替をしてから利用しました。

バスで移動中に、トイレ休憩としてガソリンスタンドに寄りましたが、日本でいう高速道路などの『PA』のような感じで、違いと言えば、男性の『小』の場合、トイレの建物の後ろ外側にあることですかね。誰かさんが、流れている水で手を洗っていたようでした。確かに洗面台のような形のトイレもありましたので、勘違いもしょうがないかな…?

『大用トイレ』は使用しませんでした。覗いてみたら『和式の金隠しの無いモノ』で、ドア側を見て利用するそうです。



キウマーパン・ナチュラル・トレイルからの大展望

#### <6>ホテルでのトラブル

##### ① チェンマイのホテル

部屋割り (2名1室) が日本の旅行会社から連絡が届いていないため、組み合わせが、あまりにも違い過ぎていました。それで、私から旅行会社に提示していたリストを渡し、再調整をしてもらいました。男女が一緒の部屋もあったほどでした。

##### ② バンコクのホテル

朝、女性2名から『1ベッドで、毛布も1枚でした』というクレームがありました。

フロントに話をしたところ、『全て2ベッドですよ!』とパソコン画面を見ながら強く言われました。それに対して、『1ベッドだったので言っているのですよ! 調査をしてください!』と、強く主張 (抗議) しました。

その後、フロントに確認したところ、チーフらしき人が出てきて『1ベッド』であったことを認めたものの、何の謝罪も無く、ただただ言い訳を言うだけでした。

『昨夜、連絡をもらえたら他の部屋を準備できたが、連絡が無かった!』

『連泊していただけるなら、その後の食事をサービスできるのだが…』など

私としては、ミスを潔く認め謝罪し、再発防止のシステム変更を約束して欲しかったの

ですが…。言い訳に終始する姿にガッカリし、話し合いを諦めました。これに追い打ちをかけるかのように、ガイドの Ms. Daranee (ダラニーさん) から一言がありました。

『アビコさん、昨晚聞きましたよね！「何か問題はありますか？」と。「無い」と言ったので私は帰ったのですよ！』

この時点では、私は未だ部屋にも行かず、ロビーにいたのですが…。他の参加者もエレベーターで各部屋に向かって行ったばかりだったので…。



タイ最高峰：インタノン山山頂

## <7> 観光三昧

### ① チェンマイ

チェンダオ山登山の前に、『タイ最高峰：インタノン山 2565m』に、参加者 23 名全員で立った後、ツイン・パゴダを望む『キウマーパン・ナチュラル・トレイル』を可愛い現地少数山岳民族の女性ガイドらと共に歩きました。昼食後、ワチラタン滝で飛沫を浴びた後、半壊しても巨大な仏塔が聳えているワット・チェディー・ルアンを見上げました。夕食は、

オールド・チェンマイ・カルチャー・センターで、タイ北部伝統のお祝い膳のカントーク・ディナーを味わいながら、タイ舞踊ショーを堪能しました。もち米が美味しかったですね。

チェンダオ山下山後は、ソントオ（小型や中型トラックを改装したミニバス）3 台に分乗し標高 1080m のステープ山頂上に建つワット・プラ・タート・ドーイ・ステープへ。土足厳禁の回廊に囲まれた、高さ 22m の金色に輝くチェディー（仏塔）が夕陽に照らされ見事でした。チェンマイ市街の夜景を一望し、ソントオ 3 台に乗り下山しました。

### ② アユタヤ

大きな寝仏のワット・ヤイ・チャイ・モンコン、木の根に取り込まれてしまった仏像の頭部が印象的なワット・マハータート、民族衣装の女性が歩いていた 3 基の大きな仏塔のワット・プラシー・サンペットを見学した後、希望者 17 名が象乗り体験を楽しみました。

チャオプラヤー川を船に乗りビュッフエの昼食を摂りながら、バンコクまでの 2 時間半のクルーズを満喫しました。

### ③ バンコク

タイと言えば『ニューハーフ』でしょう…ということで、カリブソ・キャバレーの最前列席で『ニューハーフ・ショー』の世界に酔いしれました。最前列の特権(?)で、ハプニングが東葛山の会の男性を狙い撃ちしました。日本をイメージしたショーで、和装した女性(?)がステージから降りてきて抱きつき、左頬にブチュッ！館内は爆笑の



男性？ 女性？

渦と化しました。本人曰く、『ステージに上げられる…と思った!』

タイ最後の日は、バンコク郊外の**ダムヌーン・サドゥアク水上マーケット**を3隻の小船に分乗し、熱帯の木々が茂る運河（水路）を、時々物凄いモーター音を発しながら巧みに舵を取り15分ほどで一周しました。戻ってきた発着所付近は、行き交う小船で大渋滞して賑わっており、『ドリアン』と『リュウガン（ロンガン）』を買い、タイのフルーツを味わいました。如何でしたか？

バンコク市内に戻り、昼食後に、芝生越しに金色に輝く大きな仏塔が先ずは目に入ってきた**ワット・プラケオ**と**王宮**を回りました。本堂にある高さ66cm、幅48.3cmの『エメラルド仏』を確認できましたか？年に3回、季節の変わり目に国王自らが衣裳を取り替える為、この時期は袈裟(?)を着ていたのが気が付かなかった人もいたのでは…と思います。

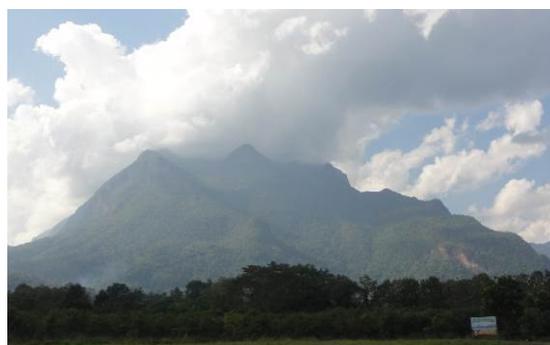
渡し船でチャオプラヤー川対岸に渡り、暁の寺**ワット・アルン**に見惚れ、再び、船で戻り、**ワット・ポー**では、長さ46m、高さ15mの金色の大寝釈迦仏にびっくり！足の裏の螺鈿細工画にはバラモン教の真理が描かれているそうです。私には分かりませんが…。

## <8>無事終えて

チェンダオ山からの夕陽を楽しみにしていたのですが、残念ながら雲が多く望むことはできませんでした。暗くなった道をテントサイトまで慎重に下りました。

翌早朝、日の出を期待してヘッドランプの灯りを頼りにギウロム山南峰まで登りましたが、ガスが立ち込めており、ご来光を拝むことは叶いませんでした。

しかし、1泊2日のチェンダオ山テントサイトまでの往復では、尾根に規則正しく並ぶ椰子の木々を遠く眺め、綺麗な三角形の『ピラミッドピーク』や岩峰の『三兄弟峰』を見上げ、南国特有の花を愛で、バナナの林を潜り抜け、山火事の跡を通り、斜面の道を『雨が降ったら大変だねえ〜』などと言いながらも楽しく歩きました。



チェンダオ山（下山後の昼食レストランより）

テントサイトは、何もないチェンダオ山直下の緩やかな開けた斜面で、夕食時には、蛍が飛び交う光景に癒されました。

登山時も、観光地でも、そしてホテルでも、多くの料理を違和感も無くとてもおいしく楽しむことができました。勿論、『トムヤンクン』や『グリーンカレー』、『タイスキ』、タイ北部のお祝膳『カントーク・ディナー』等のタイ料理を、『ビヤシン』と言われるタイ・ビールの代名詞でもある『シンハー・ビール』などを飲みながら味わいました。

私のモットーでもある、登山の前後に現地の名所旧跡なども訪れるようにしていますが、今回も、登山は勿論のこと、観光も目いっぱい楽しみました。参加者の皆さんも異国の古（いにしえ）に思いを馳せながら、遺跡や寺院などを歩き回った事と思います。

参加者の皆さんのご協力を得て今回も大過なく帰国することができました。参加者の皆さん、ありがとうございました。(2018/12/24/Mon.)